

心に寄り添い 最善の治療を

腎臓・リウマチ内科教授

HIROMURA KEJU 廣村 桂樹



増える指定難病の 基幹病院として尽力

10～40歳代の女性によく見られる全身性エリテマトーデス(SLE)は発症に免疫の異常が大きく関わっている病気で指定難病の一つです。全身的な炎症とさまざまな臓器の障害が起こりますが、特に腎臓が標的にされやすく、進行すると末期腎不全となり人工透析を余儀なくされます。

SLEや関節リウマチなどのリウマチ疾患はここ10年で生物製剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤など薬物治療が大きく進歩しました。正しい診断のもと適切な薬剤を患者さんと相談して選択するとともに、薬の副作用に十分に注意しながら診療を行っています。

一方の腎臓疾患もIgA腎症、ネフローゼ症候群、多発性のう胞腎などいろいろな病気が最近、指定難病の対象になりました。こうした難病の診断・治療に対して基幹病院としての責務を担っています。

CKDの啓発活動で 県民の健康づくり

本県は透析患者の約4割を占める糖尿病腎症が他県に比べて高い水準にあります。また、高血圧で動脈硬化が進んだ高齢者に腎硬化症が増えています。

腎臓とリウマチ疾患を一緒に扱う診療科を持つ大学病院は全国でも数少ない。その特徴を生かした臨床を得意とする群馬大医学部附属病院内科診療センター腎臓・リウマチ内科。今年4月、教授に就任した廣村桂樹さんは、リウマチ疾患の一つ全身性エリテマトーデス(SLE)によって腎臓に障害が起こるループス腎炎の臨床研究で全国調査の責任者を務めるなど高く評価されている。

これらの疾患のように、メタボリックシンドロームと深く関連して腎機能が少しずつ低下する腎臓疾患を総称して慢性腎臓病(CKD)と呼びます。人工透析を防ぐには早期発見・早期治療することが重要で、CKDを広く啓発することが県民の健康づくりに役立つと考えています。



専門は腎臓内科ですが、内科医として糖尿病、高血圧、脂質異常症など常に全身の状態を確認しながら診療することを心掛けています。教育面でも、専門領域だけにとらわれない総合的・包括的な内科医の養成を目指しています。学生や若手医師をしっかり育てることが群馬の医療レベルの向上につながるはずです。

高齢者や難病を抱えている人にとっては、病気を治すことが最優先にはならない場合もあります。患者さんの声に耳を傾けて「何がベストか」を常に考えながら、その人や家族にとって最善となるような治療を目指します。



群馬大学医学部附属病院 地域医療研究・教育センターに

「ぐんま医療人ネットワーク」が設置されました!

ぐんま医療人ネットワークは「県内各地域における医療事情の継続的な調査・検証」「県内医師配置の適正化(医師の地域偏在の解消)の推進」「医師をはじめとする医療スタッフの人材交流や育成」等を目的として、平成30年8月に設置されました。下記に挙げる事業をはじめ、群馬県の地域医療ネットワークの充実に寄与するため尽力してまいります。

- *県内医療機関の「医師勤務実態」等の調査・検証
- *県内各地域における医師の「配置状況」「不足実態」の調査・把握
- *県内医療機関への勤務を希望する医師のサポート(相談受付)



★詳しくはコチラ
<http://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/gin/>
ぐんま医療人ネットワークHP



問い合わせ先 群馬大学医学部附属病院 地域医療研究・教育センター 地域医療支援部門 TEL.027-220-7957 FAX.027-220-8781

理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大医学部附属病院

前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)
<http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>